



# 「魔法の9 nine part1」上映会

- 2014年：日本 112分 DVD ドキュメンタリー 4:3
- 監督・撮影・ナレーション：前田真吹
- 製作協力：映画「魔法の9」製作サポーターの皆様
- 取材協力：NPO太平洋戦史館
- 資料提供：高松市 清田学
- <http://movie-mahouno9.blogspot.jp/>



彼らが、生きた証。



9月6日(日) 午後6時30分～9時  
せんだいメディアテーク

7階 スタジオシアター

料金 1000円

主催 「魔法の9 nine」上映会実行委員会  
問い合わせ 090-6687-5237 (植村)  
090-2360-1075 (中村)

※上映会後に前田真吹監督によるお話会があります。

※料金は当日受付でお支払いください。

# 約60万人の兵隊の遺骸が、 国外に今も 放置され続ける国、日本



## INTRODUCTION いのちを巡るドキュメンタリー～旅～

～戦争の被害を受けるのは、多くが一般市民。～

事の始まりは、たまたまアフガニスタンに行った事だった。時は2003年。あの9.11アメリカ同時多発テロ事件の報復爆撃が行われて、約1年半が経過していた。そこで目にしたのは、廃墟の群れと朽ちた戦車。そして避難民テントに暮らす、家のない子ども達。ただの平凡な、戦争を知らない世代の1人だった「私」は、過酷な現状を真摯に生きる市民たちを知り、衝撃を受ける。「罪のない子供や、市民たちの命を翻弄する、戦争の不条理。」カメラはそこから、目を離さない。映画は、主に4つのパートで構成される。

## I. アフガニスタン - AFGHANISTAN -

濁った水を回し飲みしていた子供たちを目撃し、井戸掘り支援に関わろうとする私。次第に治安は悪化し、アフガニスタンは戦争の泥沼に陥る。渡航を断念せざるを得なくなった私は、日本で高松空襲の体験者と出会う。

## II. 空襲

第二次世界大戦中の1945年7月4日。香川県高松市はアメリカ軍による空からの攻撃を受け、1,359名が命を落としたといわれる。家を焼かれ、大火事の中を逃げ惑った生存者は、数十年来、無償で語り継ぎを続けてきた。アフガニスタンの子どもたちと同じ体験をした人達が、自分の国の足元に沢山居た事実を、改めて気づかされた私は、日本の戦争体験者を訪ねる旅へ出る。

## III. 放置され続ける、日本兵の遺骸。～西部ニューギニアへ～

第二次世界大戦の日本兵の海外戦没者数は、厚生労働省の発表で約240万人。戦後約70年経った現在も、約120万人もの遺骨が未だ行方不明とされる。海外で多くの日本兵の遺骸が、野ざらしになっていると聞いた私は、ご遺族たちとかつての戦場に向かう。

## IV. 生存者は語る

かつてのニューギニア戦の生存者・飯田進氏は、高齢となった現在、入退院を繰り返しながら、著書や講演を通して、戦場体験を語り続けている。そこから、ニューギニア戦の驚くべき実態が浮かび上がる。私たちは、戦争から、過去から、何を学ぶべきなのか？

かつての命たちが、語りかける。  
あなたは、今どんな未来を描きますか？



戦争の被害を受けるのは、多くが一般市民。～

戦争を知らない世代の1人だった「私」は、過酷な現状を真摯に生きる市民たちを知り、衝撃を受ける。